

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年2月8日
【四半期会計期間】	第38期第3四半期（自平成24年10月1日至平成24年12月31日）
【会社名】	株式会社電通国際情報サービス
【英訳名】	Information Services International-Dentsu, Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 釜井 節生
【本店の所在の場所】	東京都港区港南二丁目17番1号
【電話番号】	03(6713)6160
【事務連絡者氏名】	経理部長 酒井 次郎
【最寄りの連絡場所】	東京都港区港南二丁目17番1号
【電話番号】	03(6713)6160
【事務連絡者氏名】	経理部長 酒井 次郎
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第37期 第3四半期連結 累計期間	第38期 第3四半期連結 累計期間	第37期
会計期間	自平成23年 4月1日 至平成23年 12月31日	自平成24年 4月1日 至平成24年 12月31日	自平成23年 4月1日 至平成24年 3月31日
売上高(百万円)	43,844	49,360	63,869
経常利益(百万円)	122	1,692	2,496
四半期(当期)純利益(百万円)	30	996	1,516
四半期包括利益又は包括利益(百万円)	739	1,146	2,059
純資産額(百万円)	32,961	35,049	34,281
総資産額(百万円)	49,802	52,605	52,295
1株当たり四半期(当期)純利益金額(円)	0.95	30.59	46.55
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	66.2	66.6	65.6

回次	第37期 第3四半期連結 会計期間	第38期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自平成23年 10月1日 至平成23年 12月31日	自平成24年 10月1日 至平成24年 12月31日
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額 ( )(円)	21.05	1.55

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、期中平均株価が新株予約権の行使価格より低く1株当たり四半期(当期)純利益金額が希薄化しないため、記載を省略しております。

#### 2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが営む事業の内容について重要な変更はありません。関係会社については、子会社の数12社に変更はありませんが、第1四半期連結会計期間より、金融ソリューションセグメントの非連結子会社であった株式会社アイエスアイディ・フェアネスを連結の範囲に加えております。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間（平成24年4月1日～平成24年12月31日）におけるわが国経済は、当初は復興需要等を背景に緩やかな回復基調を示していたものの、欧州債務危機の長期化や新興国の景況感悪化から、回復の動きに足踏みが見られ始めております。情報サービス産業におきましても、企業のIT投資は金融業や製造業において改善傾向が見られていたものの、景気先行きについて不透明感が増すなか、足下では慎重な動きが強まっております。

かかる状況の下、当社グループは、前期にスタートさせた3ヵ年の中期経営計画「ISID Open Innovation 2013」の推進を通して、業績の拡大に取り組んでおります。この中期経営計画においては「価値協創」をテーマに掲げ、お客様、電通グループ、その他のあらゆるパートナーとのコラボレーションを通じて時代を先取りした新しい価値を創出し、お客様や社会の課題解決に貢献することを目指しております。

計画2年目となる当連結会計年度におきましても、競争優位性をさらに追求するため、ソフトウェア製品や新規サービスの研究開発を積極的に実施するほか、グローバルビジネスの拡大、クラウドソリューションの拡充・強化、顧客インサイトの深耕等により、売上高ならびに利益の拡大を図っております。また、第1四半期連結会計期間より、非連結子会社であった株式会社アイエスアイディ・フェアネスを連結の範囲に含めております。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は前年同期比増収の49,360百万円（前年同期比112.6%）となりました。当社グループが展開する4つの事業セグメントのうち、エンタープライズソリューション・ビジネス系は減収となったものの、金融ソリューション、エンタープライズソリューション・エンジニアリング系、コミュニケーションITが増収を牽引しました。

主として増収効果により、売上総利益は前年同期比増益の15,213百万円（前年同期比115.5%）となりました。販売費及び一般管理費は、販売促進費や研究開発費を中心に前年同期比増加し13,674百万円（前年同期比103.6%）となりましたが、売上総利益の増益により吸収し、営業利益は1,539百万円（前年同期は営業損失 31百万円）、経常利益は1,692百万円（前年同期は経常利益122百万円）、四半期純利益は996百万円（前年同期は四半期純利益30百万円）とそれぞれ増益となりました。

事業セグメント別の売上高および営業の状況は以下のとおりです。

事業セグメント別売上高

事業セグメント	前第3四半期連結累計期間 自平成23年4月1日 至平成23年12月31日		当第3四半期連結累計期間 自平成24年4月1日 至平成24年12月31日		前年同期比 (%)
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	
金融ソリューション	12,667	28.9	14,299	29.0	112.9
エンタープライズソリューション・ ビジネス系	9,471	21.6	9,222	18.7	97.4
エンタープライズソリューション・ エンジニアリング系	13,465	30.7	13,697	27.7	101.7
コミュニケーションIT	8,239	18.8	12,140	24.6	147.3
合計	43,844	100.0	49,360	100.0	112.6

(注)「金融ソリューション」では、金融業界を対象とした各種金融サービスに関わるソリューションを提供します。「エンタープライズソリューション・ビジネス系」では、全業種・業界を対象とした各種基幹システムに関わるソリューションや主に経営管理分野を対象としたビジネス系ソリューションを提供します。「エンタープライズソリューション・エンジニアリング系」では、主に製造業界の製品開発・製造分野を対象としたエンジニアリング系ソリューションを提供します。「コミュニケーションIT」では電通グループとの協業による企業向け各種ソリューションを提供します。

事業セグメント別営業の状況

金融ソリューション 14,299百万円(前年同期比112.9%)

主にメガバンク、地域金融機関、ネット系金融機関、リース会社向けに受託システム開発が拡大したことに加え、証券会社等に金融情報サービスを提供する株式会社アイエスアイディ・フェアネスを当期より連結範囲に含めたことから、当セグメントの売上高は増収となりました。

エンタープライズソリューション・ビジネス系 9,222百万円(前年同期比97.4%)

人事・給与・就業管理のソフトウェア製品「POSITIVE(ポジティブ)」の販売は拡大したものの、会計ならびに基幹システム分野におけるソフトウェア商品の販売が伸び悩んだこと等から、当セグメントの売上高は減収となりました。

エンタープライズソリューション・エンジニアリング系 13,697百万円(前年同期比101.7%)

製品開発プロセスの上流工程である構想設計や解析・実験を対象としたコンサルティングサービスが、主として自動車業界向けに拡大したことに加え、構想設計を支援するソフトウェア製品「iQUAVIS(アイクアビス)」の販売も堅調に推移したことから、当セグメントの売上高は増収となりました。

コミュニケーションIT 12,140百万円(前年同期比147.3%)

電通の基幹系大型システム構築案件受注に加え、電通との協業ビジネスが公共・自治体や民間企業向けに拡大していることから、当セグメントの売上高は増収となりました。

サービス品目別売上高および営業の状況は以下のとおりです。

サービス品目別売上高

サービス品目	前第3四半期連結累計期間 自平成23年4月1日 至平成23年12月31日		当第3四半期連結累計期間 自平成24年4月1日 至平成24年12月31日		前年同期比 (%)
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	
コンサルティングサービス	1,441	3.3	1,899	3.8	131.8
受託システム開発	13,423	30.6	16,880	34.2	125.8
ソフトウェア製品	5,215	11.9	5,753	11.7	110.3
ソフトウェア商品	15,173	34.6	15,655	31.7	103.2
アウトソーシング・運用保守サービス	3,975	9.1	4,490	9.1	113.0
情報機器販売・その他	4,615	10.5	4,682	9.5	101.5
合計	43,844	100.0	49,360	100.0	112.6

(注)「コンサルティングサービス」は、業務およびITのコンサルティングサービスです。「受託システム開発」は、顧客の個別仕様に基づくシステムの構築および保守です。「ソフトウェア製品」は、自社開発ソフトウェアの販売および保守、アドオン開発・導入技術支援サービスです。「ソフトウェア商品」は、仕入ソフトウェアの販売および保守、アドオン開発・導入技術支援サービスです。「アウトソーシング・運用保守サービス」は、顧客システムの運用・保守・サポート、ならびに業務の受託サービスです。「情報機器販売・その他」は、ハードウェアならびにデータベースやミドルウェア等のソフトウェアの販売および保守です。

サービス品目別営業の状況

コンサルティングサービス 1,899百万円(前年同期比131.8%)

主として自動車業界向けに拡大したことから、当サービスの売上高は増収となりました。

受託システム開発 16,880百万円(前年同期比125.8%)

電通向けのほか、メガバンク、地域金融機関、ネット系金融機関、リース会社向けに拡大したことから、当サービスの売上高は増収となりました。

ソフトウェア製品 5,753百万円(前年同期比110.3%)

「POSITIVE」、「iQUAVIS」の販売が拡大したこと等から、当サービスの売上高は増収となりました。

ソフトウェア商品 15,655百万円(前年同期比103.2%)

セールスフォース・ドットコム社が提供するクラウド型プラットフォーム「Force.com」のライセンス販売、ならびに「Force.com」上のシステム構築サービスが拡大したことから、当サービスの売上高は増収となりました。

アウトソーシング・運用保守サービス 4,490百万円(前年同期比113.0%)

当期より株式会社アイエスアイディ・フェアネスを連結範囲に含めたことから、当サービスの売上高は増収となりました。

情報機器販売・その他 4,682百万円(前年同期比101.5%)

電通向けが堅調に推移したことから、当サービスの売上高は増収となりました。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(3) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は1,163百万円です。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(4) 生産、受注及び販売の実績

当第3四半期連結累計期間において、受注残高が著しく増加しております。

これは主にコミュニケーションITセグメントにおいて、株式会社電通から大型の基幹システム構築プロジェクトを受注したこと等によるものであります。

なお、各セグメント別の受注状況は次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高 (百万円)	前年同四半期比 (%)	受注残高 (百万円)	前年同四半期比 (%)
金融ソリューション	11,807	105.9	3,619	111.8
エンタープライズソリューション・ビジネス系	4,513	76.0	1,539	71.6
エンタープライズソリューション・エンジニアリング系	2,640	106.4	630	109.0
コミュニケーションIT	11,045	265.2	5,173	436.9
合計	30,007	126.4	10,963	153.4

(5) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

資産

当第3四半期連結会計期間末における資産の部は、主として売掛債権の減少やたな卸資産および有価証券の増加により流動資産が428百万円減少した一方、主として新規取得に伴う投資有価証券の増加により固定資産が737百万円増加した結果、前連結会計年度末の52,295百万円から310百万円増加し、52,605百万円となりました。

負債

当第3四半期連結会計期間末における負債の部は、主として買掛債務および受注損失引当金の減少や前受金の増加により流動負債が2百万円減少したことに加えて、主としてリース債務の減少により固定負債が457百万円減少した結果、前連結会計年度末の18,013百万円から458百万円減少し、17,555百万円となりました。

純資産

当第3四半期連結会計期間末における純資産の部は、主として剰余金の配当があったものの四半期純利益の計上により利益剰余金が増加したことに加えて為替変動によりその他の包括利益累計額が増加した結果、前連結会計年度末の34,281百万円から767百万円増加し、35,049百万円となりました。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	98,000,000
計	98,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数(株) (平成24年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成25年2月8日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	32,591,240	32,591,240	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数100株
計	32,591,240	32,591,240		

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額 (百万円)	資本準備金残 高(百万円)
平成24年10月1日～ 平成24年12月31日	-	32,591,240	-	8,180	-	15,285

##### (6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成24年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成24年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 7,900	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 32,540,100	325,401	-
単元未満株式	普通株式 43,240	-	-
発行済株式総数	32,591,240	-	-
総株主の議決権	-	325,401	-

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式が90株含まれております。

【自己株式等】

平成24年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社電通国際 情報サービス	東京都港区港南 2-17-1	7,900	-	7,900	0.02
計	-	7,900	-	7,900	0.02

2 【役員の状況】

該当事項はありません。



## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成24年10月1日から平成24年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】  
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,741	3,211
受取手形及び売掛金	15,672	12,779
有価証券	-	999
商品及び製品	72	181
仕掛品	867	2,148
原材料及び貯蔵品	23	23
前渡金	3,957	3,786
預け金	8,096	8,027
その他	2,312	2,160
貸倒引当金	27	28
流動資産合計	33,716	33,288
固定資産		
有形固定資産	6,024	5,763
無形固定資産		
のれん	133	104
その他	4,663	4,915
無形固定資産合計	4,796	5,020
投資その他の資産		
投資その他の資産	7,760	8,534
貸倒引当金	1	1
投資その他の資産合計	7,758	8,532
固定資産合計	18,579	19,316
資産合計	52,295	52,605
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,402	4,448
未払法人税等	311	108
前受金	4,096	5,261
受注損失引当金	393	15
その他	4,797	5,166
流動負債合計	15,001	14,999
固定負債		
役員退職慰労引当金	62	28
資産除去債務	717	759
その他	2,232	1,767
固定負債合計	3,012	2,555
負債合計	18,013	17,555

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	8,180	8,180
資本剰余金	15,285	15,285
利益剰余金	9,979	10,576
自己株式	28	28
<b>株主資本合計</b>	<b>33,417</b>	<b>34,014</b>
<b>その他の包括利益累計額</b>		
その他有価証券評価差額金	1,182	1,157
繰延ヘッジ損益	28	67
為替換算調整勘定	346	217
<b>その他の包括利益累計額合計</b>	<b>864</b>	<b>1,008</b>
<b>少数株主持分</b>	<b>-</b>	<b>26</b>
<b>純資産合計</b>	<b>34,281</b>	<b>35,049</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>52,295</b>	<b>52,605</b>

( 2 ) 【 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 】  
【 四半期連結損益計算書 】  
【 第 3 四半期連結累計期間 】

( 単位 : 百万円 )

	前第 3 四半期連結累計期間 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成23年12月31日)	当第 3 四半期連結累計期間 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成24年12月31日)
売上高	43,844	49,360
売上原価	30,676	34,146
売上総利益	13,168	15,213
販売費及び一般管理費	13,199	13,674
営業利益又は営業損失 ( )	31	1,539
営業外収益		
受取利息	41	43
受取配当金	46	34
為替差益	36	25
付加価値税還付金	-	51
雑収入	93	36
営業外収益合計	217	192
営業外費用		
支払利息	32	32
持分法による投資損失	26	4
雑損失	4	2
営業外費用合計	64	39
経常利益	122	1,692
特別利益		
投資有価証券売却益	106	-
特別利益合計	106	-
特別損失		
固定資産除却損	-	79
特別損失合計	-	79
税金等調整前四半期純利益	228	1,612
法人税、住民税及び事業税	244	324
法人税等調整額	46	286
法人税等合計	197	610
少数株主損益調整前四半期純利益	30	1,002
少数株主利益	-	5
四半期純利益	30	996

【四半期連結包括利益計算書】  
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	30	1,002
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	800	24
繰延ヘッジ損益	14	38
為替換算調整勘定	77	129
その他の包括利益合計	708	144
四半期包括利益	739	1,146
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	739	1,140
少数株主に係る四半期包括利益	-	5

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

(連結の範囲の重要な変更)

第1四半期連結会計期間より、株式会社アイエスアイディ・フェアネスは重要性が増したため、連結の範囲に含めております。

【会計方針の変更等】

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

これによる当第3四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

1 四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、当四半期連結会計期間末日が金融機関の休日でしたが、満期日に決済が行われたものとして処理しております。当四半期連結会計期間末日満期手形の金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
受取手形	13百万円	3百万円

(四半期連結損益計算書関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)及び当第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

主として連結財務諸表提出会社の顧客に導入される情報システム及びそのソフトウェアの稼働時期は、期首及び第3四半期会計期間期首からとなる場合が多いため、多くの顧客の決算期(年度末)である3月及び第2四半期会計期間末である9月にシステム開発の完了又はソフトウェアの出荷・納入が集中します。そのため、当社グループの売上は3月及び9月に集中する傾向があり、当社グループの売上高は季節的変動があります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
減価償却費	2,148百万円	2,156百万円
のれんの償却額	28	28

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年6月22日 定時株主総会	普通株式	325	10.00	平成23年3月31日	平成23年6月23日	利益剰余金
平成23年10月31日 取締役会	普通株式	325	10.00	平成23年9月30日	平成23年12月5日	利益剰余金

当第3四半期連結累計期間（自平成24年4月1日至平成24年12月31日）  
配当金支払額

（決議）	株式の種類	配当金の総額 （百万円）	1株当たり配 当額（円）	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月26日 定時株主総会	普通株式	325	10.00	平成24年3月31日	平成24年6月27日	利益剰余金
平成24年10月31日 取締役会	普通株式	325	10.00	平成24年9月30日	平成24年12月5日	利益剰余金

（セグメント情報等）

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間（自平成23年4月1日至平成23年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント					合計
	金融ソリュー ション	エンタープライ ズソリューション・ビジネス系	エンタープライ ズソリューション・エンジニア リング系	コミュニケー ションIT		
売上高						
外部顧客への売上高	12,667	9,471	13,465	8,239	43,844	
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-	
計	12,667	9,471	13,465	8,239	43,844	
セグメント利益又は損失（ ）	386	1,019	28	630	31	

（注）セグメント利益又は損失（ ）の合計額と四半期連結損益計算書の営業損失（ ）は一致しております。

当第3四半期連結累計期間（自平成24年4月1日至平成24年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント					合計
	金融ソリュー ション	エンタープライ ズソリューション・ビジネス系	エンタープライ ズソリューション・エンジニア リング系	コミュニケー ションIT		
売上高						
外部顧客への売上高	14,299	9,222	13,697	12,140	49,360	
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-	
計	14,299	9,222	13,697	12,140	49,360	
セグメント利益又は損失（ ）	740	661	207	1,667	1,539	

（注）セグメント利益又は損失（ ）の合計額と四半期連結損益計算書の営業利益は一致しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	0円95銭	30円59銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	30	996
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	30	996
普通株式の期中平均株式数(千株)	32,583	32,583
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、期中平均株価が新株予約権の行使価格より低く1株当たり四半期純利益金額が希薄化しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

平成24年10月31日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ) 配当金の総額 . . . . . 325百万円

(ロ) 1株当たりの金額 . . . . . 10円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日 . . . . . 平成24年12月5日

(注) 平成24年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行いました。



## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年2月5日

株式会社電通国際情報サービス  
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 松本 仁 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 瀬戸 卓 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 後藤 英俊 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社電通国際情報サービスの平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成24年10月1日から平成24年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社電通国際情報サービス及び連結子会社の平成24年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 
- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはX B R Lデータ自体は含まれていません。